

俺すごいシャイっていうか内気な感じやってんけ

ど、英語やることによって外交的な感じに、フラン

クな感じの自分も出せたから、結構それがよくて

語り手 山本昂太郎(高校六期生 フォトグラファー)

聞き手 小林 楓

*

突然のアメリカ

―高入生でしたっけ？

そうね、小学校、中学校、地元のとこ行ってた。どっちかというおとなしめな感じやったと思う。本好きでずっと読んでたね。うち、父親がバスケの監督でバスケに囲まれて育ったというか、弟もバスケしてて、お母さんもバスケやって。今もママさん。

―えー！すごい。

父親もまだ京都で教えてるし、弟は中学校で教師しててバスケ教えてるし。だからみんなバスケやって。だからその海外行ってたっていうのは父親が大学の研究で海外行くみたいになって、アメリカ、バスケの本場でリサーチしたいってなって。小五の時にご飯食べてたらいきなり「来年からアメリカ行くから。」とか言ってきた。「ええ？ー」みたいな。それがめっちゃ嫌で。友達いたし、修学旅行も行けへんなって。

―そっか修学旅行…。

そう！ でも強制みたいな感じで連れていかれて移住したのがカリフォルニア。父親の方針でインターナショナルスクールとか入れずに現地

の小学校？ 日本人おらん学校に入れられて。ハーフやけどほぼアメリカ人みたいな子が一人だけいたね。そこで一年間過ごした。最初もう何にもわからへんし超緊張した。自己紹介して、いまだに覚えてんねんけど休み時間になった瞬間にもう全員来て、来てくれて。なんか英語ブワッて喋ってくれたんやけどわからんすぎて泣きそうになるっていう。―そらわかんないですよ。

まあでも友達とかに恵まれてバスケとか野球とかスポーツして過ごした。で、その時期に英語に興味を持ったっていうか。友達が音楽好きで。ヒップホップ。俺の中にはあんまりない音楽やったから面白くて、で英語に興味持って。一年後に帰国して地元の山科の中学校行って、そこバスケめっちゃ強くて。一個下は全国とか出てたんやけど、超敵しかってん。三年間部活潰けやった。けど英語好きで英検受けたりと。点数がすごい取れたっていうのと、アメリカから帰ってきたっていう。

―帰国子女の感じですね。

それをみんなが言ってたからちよつと英語できなかんキャラっていうか。テストも点とれなおかしい、みたいになってたからちよつと頑張って勉強いい方向に、してた。

―すごい。部活も頑張って英語も頑張った。

高校も迷った。バスケしたかってんだけど、俺自分にそこまで自信なかったから超強豪校とか行っても大変かなって思って。逆に、勉強も結構好き、っていうか、嫌いじゃなかったからやってたら、推薦もらえまして。ってなって、立命系は狙えそうって。

―あー！ はいはい。

でその時に一番バスケ強かったんが立命館守山やって、じゃあ立守ってなってんな。

―部活推薦、ですか？

いや、内申点推薦みたいな。学力推薦？ ヤンキー中学やったから

(笑)。俺はどっちかというとヤンキーにならないタイプ…(笑)。

―ふふふ。いや推薦すごいですね…。

*

なんでもないことと今

で、高校入学してバスケット部入部して。でおんなじタイミングかちよつと後に川端先生が来てん。

―そうなんです！ いやあ川端先生立守歴何年なんでしょう…。

まだいてくれるんやって感じ。でまあ部活はやりつつ。一年の時とか部活ノート毎日つけてて。日常のこともいっぱい書いてあったけど。そのとき好きやった子とか(笑)。

―え！ かわいい！

今やから見れるけどちよつと、恥ずいよな(笑)。毎日結構日記的なんつけててさ。高校時代は部活はやりつつ、漠然となんかまた留学行きたいみたいな気持ちはすごいあって。やっぱりアメリカ、楽しかった記憶が強かったから。やし、英語やるようになってから自分の別サイド？作れたっていうか。英語ってキアラ変えられるから。俺すごいシャイっていうか内気な感じやってんけど、英語やることによって外交的な感じに、フランクな感じの自分も出せたから、結構それがよくて。で、音楽にもめっちゃハマったから毎日音楽聴いて。部室でも音楽流してみんなに何聴いてんのか聞かれてたな。おっきい転機はやっぱりシカゴ。

―三年生で行かれたんですか？

そうそう、俺らん時三年生やってん。二個下くらいから二年生で行くようになったみたい。

―何月くらいでしたか？ 受験もありますし三年生…。

夏やったね。めっちゃ暑かった。でもその留学がめっちゃ俺の中でかくて。インターンでレストラン行ったりとか、ホームステイ！ 現地の学校に生徒の家から行く、みたいな。でも俺だけちよつと面白くて、みんな生徒のそこ行く感じやってんけど、俺先生の家やってんな。

―ええ！？ ありなんですね先生のお家(笑)。

ステイ先の先生は歴史の先生やったかな。その先生が俺の第二の父親みたいになってくれて。めっちゃ歓迎してくれて。彼らと十日間過ごして。お出かけとかコンサートとか連れてってくれてね。歴史の先生やから歴史のそこ行ったりとかアメリカのことめっちゃおしえてくれたりしたん。彼に大学どうしよって進路相談したら、とある水泳選手の話してくれて。十何個とかの金メダル取ったアメリカの水泳選手なんやけど、彼はもうすごい量の練習をして本番も練習とおんなじ感じで行くっていう。本番で一番いいっていうより練習で一番いいを出していつも通り本番に臨むから、緊張とかせんとそのままハイパフォーマンスができるって。それって自分の努力プラスとてつもない自信を持ってるんだよね。っていう話してて。昂太郎もそうやっていろんな経験して、自信もって人生楽しんでほしいって。日本ってあんまり自信って感じないから、それってすごい新しいなって感じたね。そんな話もしつつ。シカゴで俺いろんな出会いがあって。シカゴでそのシェフ？ 日本人のレストランの時の指揮ってはる人、Nさんっていうねんけど。その人も俺によくしてくれて。結局その後もずっと関係あって、今も続いてんねんけど。っていう話。

―すごい！！ そのインターン終わって以降は特に海外に行かれたりとかは最近なく？

あ、それこそ大学の時に……。大学の話になっちゃうけど。国際関係学部行っただけですけど、衣笠の。APUとか色々考えて、やっぱり人気、倍率結構高くて。色々心配やってんだけど最終、国関行くことになったんやけど。最初DUP行きたくて。今もあんなのかな？ ワシントンの大学と日本の大学を二年ずつ履修して二つの学位とるっていうプログラムがあったのよ。アメリカでがつつり勉強したくてそれ目指してて。それやると最初から授業がめちゃくちゃパンパンになるのよ。特別コースがあつてね。それやってたんやけど最後の面接落ちちゃって。

—あら、そうだったんですか。

そう。で、当時すごい仲良しだった、今も仲良いねんけど、その子と俺の二人だけ落ちてんな。結構辛いみたいになって。じゃあ夏休み長いしどっか行くか。ってなつてバックパックとか持つて東南アジアとか行き始めてん。

—え！ カンボジアとかですか。

あそうそう、カンボジアとか、タイとか。結局それが毎年恒例みたいになつて結構行つてんな。ベトナム、中国とかも。お金もないし貧乏旅やったね、最後二ドルしか手元にないとか（笑）。留学もまあ引き続きやっぱ行きたかったから、交換留学とか狙つてたんやけどTOEFLで苦しんだ。

—TOEFL苦しみました。

大変よね。しかもなんかIBTの方を取らなかんくて、二年の時に行きたかつたんやけど行けへんくて。アメリカとか行けんかってね。

で、そんなときは諦めてもう一年勉強して三回生の時に行った。俺サークルとか入ってへんかってんだけどバイトしてて、バイトは塾講師とアパレルしてた。そこで洋服とかオシャレ好きとかじゃなかったんだけど、バイ

ト募集の張り紙見て店員さんに聞いてんな。その時会った人が「よかつたら履歴書持つてきてね。」って言うてくれはったから実際持つて。で、面接するつてなつてん。社長がその時たまたま面接に出てきて、バックパックとかやって、アメリカ住んで……。みたいな話を気に入ってくれて、じゃあもうここで働きなよって。

—ええー！ リアルタイムで採用つてことですか。すごいなあ。

そうそう。ほんで洋服屋さんで働き始めて、アメリカの服とかもあつてアメリカンカルチャーの勉強とかにもなつたね。四年間続けたね、留学期間除いて。留学目指してバイトと勉強頑張つて感じ。大学生活って暇にしようと思つたらめっちゃ暇になるんやけど、なんか難しいよね大学って。俺も今思えばいろんなことできたなつて思う。ただ漠然とアメリカ行きたいと思つてただけやし。洋楽とかの歌詞翻訳してノートに書いたり毎日映画見たり。でもそれですごい英語の発音とかがめちゃめちゃ良くなつたね。俺トータル二年しかアメリカで過ごしてないけど結構今でもネイティブかと思つたつて言われるくらいには喋れるようになったね。

—わあ、それは参考にさせていただきます私の英語勉強に。

ぜひ（笑）。いやでもそれが今に繋がつてるつて考えたらすごいよなあ。

*

見方を変える

言語の話でいくと、俺塾講師やつてる時もあった、教えることも結構してんだけど、地元の中学やんちゃしてる子多かつて、勉強してる子っていうか、好きな子おらんかってん。塾なんか特に、嫌々来てるやつしかおらんみたいだね。俺もついた子そういう子多くて。でも嫌いやと勉

強入ってこーへんやん。俺数学超苦手で。小森先生まだいはるかな、バスケの顧問で数学の先生やってんけど、俺理系全然無理で。成績全然取れへんかったから、顧問の先生やのに。苦手意識あるとなかなか入ってこなかったりするな。勉強は好きなものから取り組むんがいいなって。勉強ってできる人少ないねんやっぱ。勉強量こなせる人って、ほんまに勉強好きか、そういう性格の人かしかないと思う。メンタルコストみたいなめっちゃすごいなって感じる。

ー勉強って結構スタミナ吸われますもんね。

そう。だからこうYouTube見たりするその時間も勉強に繋がるとかめっちゃいいと思うねんな。

ーなるほど……。名案ですな確かに。

やっぱ好きなものから興味持たな勉強抄らんね。理系科目もストーリー性がある單元とか概念的なのは好きやってんけどテストってなるとあかんかったね(笑)。自分が好きなポイントって色々あるから。嫌いなものでも見方変えると意外と好きなものってあったりするし。そういう発想の転換って大事なんじゃないかなって思う。

ー見方を変える。素敵な考え！

勉強してたらいろんなこと学ぶ土台作れるから。大人になって学ぶこともめっちゃ多いし。俺の仕事は特に写真撮る仕事で結構いろんなこと勉強しなできひんことも意外とあるから……。

ー私も実はカメラ趣味で。嗜む程度なんですけど。また終わったら設定とか色々教えていただきたいと思って今日実は持ってきて……。

もちろん、もちろん。俺も今日持ってきてるよ。いいね。

ーF値とかシャッタースピードとか色々めっちゃ難しいです(笑)。

全然教えるよ今日。カメラ一生できるし、いい趣味になるよ。高校の

時なんて俺全然カメラしてへんかった。芸術って人生でいいこと多分いっぱいあるよ。俺も美術好きで、中学の時も今思い出したら美術の教科書ほんまに端から端まで全部見てて。

ーそうなんですな！

美術館とかも良く行ってたし。父方のおじいちゃんが結構そういうの好きでね。

ー私も展示会とかよく行きます。いいですよ。私、絵描くのとかも結構好きで暇あったら絵描いてます。

いいね絵描けるんだ。俺は高校の時、歌詞翻訳してたしな。辞書で。

ー辞書?! そっかないのかGoogle翻訳とか。

そうそう。電子辞書とかも禁止されてたりしてたね。え、今って紙辞書使うん?

ー今はもう全部これ(iPadを指して)とMacBookですな。

うわー。すごいな、いいな。色々できるしいいよね。Photoshopとかも使えるんか。すご。人生豊かにしてくれるわ(笑)。で、どこまでしゃべったつけ? あそうそう、三回生の時に交換留学行けるよってなってる。で、念願の留学。だいたい一年間の。そう俺高校時代めっちゃ本読んでたし哲学とかにも興味あったからそういう授業も留学先の大学でとってたんやけど、高校の時の図書館司書の人俺なんかめっちゃ好きやって。その人にしゃべりに行きたいから本借りたりしてたな。なつかしー。

ーへえ、いいですね。今の人なんか? 今の人もすごく優しいような方です。

多分違うやろうけど(笑)。他には国際関係の授業とかも大学で取ろうと思ってたし結構頑張っているんな単位とったね。大学は寮生活や

って、アメリカ人のルームメイト二人とインド人のルームメイト一人と一緒にやってんけど。

—じゃあ四人で一部屋、ってことですか？

いや、四人で一部屋は流石に狭いから（笑）、でっかいリビングプラス二部屋あって、その部屋に二人ずつ、って感じやった。二段ベッドの上の方で寝てたわ。ちよつと隠れてる感じであつてよかった。下はもう開けたら丸見えーみたいな感じやし（笑）。で、今の写真の仕事をしようと思つたきつかけもそこでできて。

—大学で？

そう。インターナショナルステューデントだけ集まる時があつて。まあ、最初は結構彼らと過ごしてたんやけど。留学生同士仲良くしよう的な。そこでフランス人の男の子に出会つて。当時好きやった音楽がめっちゃ似てるっていうのから仲良くなつて。家遊びに行ったり一緒に出かけたりもしたね。それから、シカゴ行つたときも、高校の時のステイ先の先生が寮の準備とか手伝ってくれて、必要なもんあつたらなんでも言つてやーみたいな感じやったね、週末一緒に出かけたりもしたし。インターンしたレストランのシェフさんとも一緒にご飯食べたりした。留学生ってビザの関係でバイトしたらあかんねんけど、その人のお家でベビーシッター的なん任してもらつて一緒にご飯食べたし。そういうのもあつて、あ、だから高校の時の経験とかもあつてシカゴ好きやったからシカゴに行つたわけ。ごめん話前後しちゃうねんけど。んで、フランス人のお友達に会つてん。彼が、アートに興味のある人で、カメラ持ってたん。最初に言われたんが、俺を撮りたい。昂太郎のそのスタイルがなんか好きだから、って。外によく写真撮りにいったん。あ、これこれ（当時撮つた写真を見せてくださる）。

—めっちゃ綺麗。これ何持つて……、扇子か！

扇子。そう、なんか色々ポーズとかも。彼は色々ファッション誌とか見ててこういうのしてほしいとか、服はこういうのとか。

—指定してくれるんですね。

そういう遊びも結構色々してて。彼が、昂太郎もカメラ触れば？ってなつて。そんなときの俺のインド人のルームメイトが、カメラ持つててん。Nikonのいい一眼。

—私もNikonです。

あほんまに！ ええやん。で、「全然使つてないから昂太郎使つていいよ。」って言つてくれて、まあ、ほぼ借りパクみたいな（笑）。ちゃんと返したけどな？ ほぼ俺のみたいな感じで使つてた。授業とかでも使つたし。講義もそういうアート系取るようになってん。その、フランス人の彼と他のフランスの人たちとも好きな音楽とかシェアして仲良くなつて。彼らも日本のカルチャーへのリスペクトがすごいあつたんよ。俺らもフレンチ料理とかファッションとか映画とか。実はたくさん交流があるというか、ね。そんな感じでいろんな出会いがあつて留学を終えて日本帰つてきて。ちよつとゆくりして、バイトもまた復活して、どうしようかなつてなつて、結局一ヶ月くらいヨーロッパに飛んでん。フランス人の彼に会いに行つたり、ロンドンのお友達いたからその子にも会いに行つたり、ミラノにも行つたね。バイト先、外国のお客さんすごい多くて俺英語担当やつてんけど結構お客さんと話弾んで、この後飲み行こうよみたいになつてたりしててん。何人か友達になつてんけど、そのうちの一組がカップルやつてんけど、イタリアの人で。色々買つてくれてありがとう！ ってしたら、次の日俺鴨川で友達待つてんけどそこでおお！！ って会つてんな（笑）。彼らと色々喋つてみたら、靴職人

やってん。超ハイエンドの工場持ってます、みたいな。で、もしこっち来る時あったら連絡して、って言われたからほんまに連絡してやろうと思つて(笑)。で向こう行つた最後の一週間くらいで行つたね。ロンドンではちよつと仕事手伝つて、フランスでは写真一緒に撮りに行つて。そういう感じのことをしたね。当時、進路迷つて、大学院行か。卒論書かなあかんかってんけど、そういうアカデミックな分野も好きやったから、結構一生懸命書いたらなんか選ばれて。今も図書館に残つてらしい。

—え！　すごいですねめちゃくちゃ。大学生なつたら探しに行こうかな。

ほんで、院行か迷つてんけど、東京にあるブランド品のヴィンテージのお店があつて、そのオーナーさんの娘さんが俺の同期やつてんよ。結構「E」な人がくるお店やし、海外のアリアナ・グランデさんとか。英語が喋れる人が必要やつて、「昂太朗、ファンション好きやし英語も喋れるやろ？　英語必要やから来ない？」つてなつて。東京に行く選択肢全然考えてなかったんやけど、友達もいたしありかもなつてなつて。その人らとも今も付き合ひあるんやけど。遅れて上京して、一年半くらいそこで働いたわ。でもコロナ始まつちやつてね。でオンラインショップ始めたらめっちゃ売れるようになって。お店は調子よかつてんけど、俺は毎在庫確認して写真撮るだけみたいになつちやつて。接客が仕事やつたからさ。

—気狂いそうなんですけど毎日おんなじ仕事……。

そう！　結構きつくて大変やつたんよ。俺耐えられなくて。次の仕事とか決まつてなかつたけど「辞めます。」言つて。あんまおすすめせんけど。カメラの仕事できひんかなつて思つて、フリーランス始めてん。

俺超ひよっこやしどうしよーみたいになつて、俺英語使わな損やなと思つて。海外の人と仕事したいなつて。好きやつた写真家さんが一日アシスタント募集みたいなんをしてはつて、それに参加することにしてんな。そしたら彼女が気に入つてくれはつたんか、「明後日も撮影あるし来てよ！」つて言つてくれて。そうやつてやつてうちにほぼ直アシ(直属のアシスタント)になつてた。彼女の契約してる人にも俺の話が伝わつてその人からの仕事来るようになって、その夏なんか大きい撮影が三日間あつてそれ手伝いに行つたらすごい大変で。三日間で三十分とかしか寝れへんかつたなあ。その後、また大きい映画の撮影が日本であるつてなつて、監督さんのドライバー任されて、それが長期の仕事やつたね。八ヶ月週五で働いたね。職場環境はめっちゃや学校に近くて楽しかつた。写真の仕事もしたかつたからフォトアシストの仕事もさせてもらつて、映像関係の知り合ひも増えたから、そこでも英語で大事にしてもらつて。ほんまやつたら直アシとかなつた後、独立するんやけどね

(笑)。

*

言語の壁

—英語つて強いですね。お話聞いてて実感しました。

ほんまにおすすめ。コミュニケーションつて、でも、最終、言語じゃない。言葉わからんでも仲良くなれるから。コミュニケーションの面白さを日々感じれるから英語やつててよかったと思う。英語喋つてると英語のキャラになれるから。英語つてクリアな言語やし、敬語もそんなないし。壁がなくていいなつて感じるね。

—確かに敬語の概念薄い気がします。

日本語つて空気と文脈で読む言語やから、そういうところが美しいんや



右：語り手 山本昂太朗さん

左：聞き手 小林 楓

けど。っていうのにも英語を学んだから気づけたんやと思う。

― 貴重なお話ありがとうございます。一緒にお写真撮っていただいてもいいですか？

もちろんです。こちらこそありがとうございます。

【感想】

幼い頃からグローバルな環境で育って、日本にずっといたら得られないような経験をされ、いろんな考え方に触れられていたので、話を聞いていて全てが新鮮だった。特に最後の方に仰っていた「英語を学ぶから日本語の良さがわかる。」っていうのにハッと、それに気づくのっですごいなあと考えた。早い段階から英語に主体的に触れていくことでコミュニケーションの幅が広がると強く思ったので楽しく学びを深めていきたい。